

IASB-FASB の会計コンバージェンスに関する FSB 総会への更新報告

2012 年 4 月 5 日

ハンス・フーガーホースト（国際会計基準審議会議長）

レスリー・サイドマン（米国財務会計基準審議会議長）

要約

1. 2006 年に IASB と FASB（両審議会）は IFRS と米国基準に最も重大な改善をもたらす短期と長期のコンバージェンス・プロジェクトを識別した覚書（MoU）に合意しました。MoU は 2008 年に更新されました。
2. 両審議会は MoU の計画を完了する間近です。
 - アクションが識別された短期プロジェクトの多くは完了済又は、完了間近です。1 つのプロジェクトはより優先度が低いと決定しました。
 - 長期プロジェクトの内、いくつかのプロジェクトは完了済であり、両審議会が技術的な決定をいまだに最終化していない、当初識別した 3 つプロジェクト（リース、収益認識及び金融商品）があります。
3. 以前の報告書において、我々は、再公開が必要であるかどうか最初に考慮し、次に、提案された最終基準に対するフィードバックを考慮し、第三に、基準が運用可能であると満足できるまで、どちらの審議会も新基準を公表しないことを表明しました。2011 年の途中で、両審議会は合同で、収益認識とリースの提案を再公開する決定を発表しました。この決定は、これらの基準が財務報告に及ぼす重要な影響を懸念した広範な世界の関係者からのフィードバックに応じて行われたものです。金融商品の認識と測定及び減損に関する公式の決定が両審議会によってなされない一方で、これらのプロジェクトが提案する変更の重要性を考慮すると、我々はそれらもまた再公開されると期待しています。
4. IASB と FASB は、金融商品、リース及び保険プロジェクトについて収斂された解決に到達するため迅速に作業を継続しています。しかし、この作業は潜在的な解決が運用可能となることに特に重点を置いて、徹底したコンサルテーションが可能なペースで取り組まれています。我々は、2012 年第 2 四半期の収益認識に関する共同プロジェクトの再審議開始、及び、2012 年下半期の分類と測定、減損、リース及び保険に関するプロジェクトの再公開草案の公表を期待しています。2013 年半ばまでにこれらのプロジェクトに関する最終基準の公表を期待しています。
5. 財務報告に対するこのように待ち望まれた改善の完了が遅れることは不幸なことです。すべての変更が運用可能で、これらの重要な領域に財務報告の改善をもたらすようにする必要があります。会計上の規定の変更は適切であり、利害関係者が十分にプロセスに参加する機会を持ち、更に両審議会がプロセスにおいて利害関係者のフィードバックを考慮して対応するようにするのは、両審議会の義務です。再公開草案は、このケースにおいてはプロセスの一部です。